

立山 雄山東尾根

【日時】 平成31年4月27～28日

【メンバー】 Y川 (L)、T

【概要】

27日 風雪

前夜は立山駅駐車場で車中泊し、今日は黒部平から200mほど登った2069mピークが目標である。駅では雨であったが、美女平は雪で冬景色であった。さほど順番待ちせずに黒部平に到着、駅内は人でごった返しており、立ち食いソバ屋で昼食を済ませる。

外は雪が降りしきっており、視界は200mほどであろうか、風はあるが強くはない。駅の左側から回り込み、尾根上に出て登り始める。広い尾根はすぐにやせてきて、降雪と風によりナイフエッジ状になっている所もある。右は硬い残雪、左は柔らかい新雪となっており、雪が崩れないかを確認しながら慎重に進む。急な雪壁状の斜面もあり、思ったより気は抜けない。雪の降りしきる急斜面を登り、稜線を右に辿ると2069mピークに到着した。予想に反して狭いため、雪を切り崩してテン場作りに励む。昼過ぎにはテントに入ったが、その後降雪が続きテントラッセルも行った。夜は風も強まり、テント横に積もった雪でテントが押されて窮屈であった。

28日 快晴のち薄曇り

朝3時15分に起床、テントから除くと満天の星空であった。前夜は下山も考えたが、登るつもりで準備に入る。朝5時過ぎ、モルゲンロートの立山連峰を見上げながら登り出す。先日と同じで、右は硬い斜面、左は柔らかい新雪斜面となっており、朝冷え込んだため新雪の積もっていない斜面は硬い。新雪側を歩くとラッセルがあるので、片足のみを新雪側にして登る。ノートレースの美しい雪稜が青空に向かって伸びており、登高欲が湧いてくる。痩せた部分や急な雪壁も出現するが、ロープを出すほどではない。2681mピークは近いようで時間がかかり、広いクラストした尾根を登り終えて到着した。先のルートが見通せ、雄山頂上神社も確認できる。

ここから先の吹きだまりでは積雪量が増え、腰までもぐってしまう所も出てくるため歩く速度は遅くなる。やがて、東一ノ越からの尾根とのJPである雷電峰の登りにかかる。雪のついた岩稜であり、左側がスッパリと切れ落ちているのでロープを使い、ルートを捜す。尾根上を行くと短い懸垂が必要のようなので、比較的傾斜の緩い右側から岩峰を回り込むと2ピッチで抜けることができた。次のピークが雷電峰で、これも岩稜である。尾根上を辿り、ピークを下れば雄山へ少しの登りを残すのみだが、下降側の斜面の様子が分からないため、ピーク手前の鞍部から右側雪面を下り、ピークを巻くように側面をトラバースした。巻き終わった所は広い鞍部で、小休止する。雷電峰からの下り側斜面はさほど急ではないが、雪の付いた石がごろごろした斜面であるため、アイゼンでは歩きにくいであろう。

雄山への尾根は、広いが雪が多そうに見えラッセルが気にかかっていたが、予想どおりで登りはじめからしばらくはラッセルに苦しみ、思うように進めなかった。雷鳥が多く、写真に収めなどしながら登る。この立山東面は、登り出しから雷鳥の鳴き声が至るところで聞こえており、本当に多く生息している。斜面の三分の一ほどを残す所あたりから雪が締まってきて登りやすくなり、稜線に到着した。登り着いたのは雄山休憩所の手前で、多くの登山者が行き交っている。ここにリュックを置き、雄山神社を往復する。視界は良く、白山、富士山～南アルプス、上信越の山々がすべて見えていた。ここからは、室堂へと下山した。

GWの立山とは思えない静けさの中、標高差1000m以上のノートレースのきれいな雪稜を辿ることができ、好ルートであると感じた。

27日 黒部平 10時46分 2069mピーク 11時32分

28日 2069mピーク 5時22分 2681mピーク 8時50分 雷電峰ピーク手前 11時12分 立山稜線 11時29分 雄山 11時45分 室堂 13時50分



Morgenロートの立山連峰



眼下には黒部湖



2681m ピークを目指す



雷電峰を目指して



雷電峰への登り



雷電峰を巻く



雄山への最後の登り



まだ白い雷鳥のつがい